

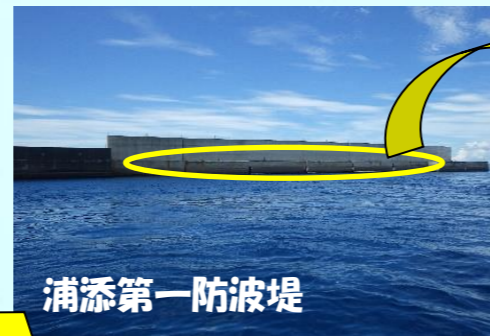
No.7 港にいるサンゴたち

那覇港に生息しているサンゴや海そうについて調査しました。

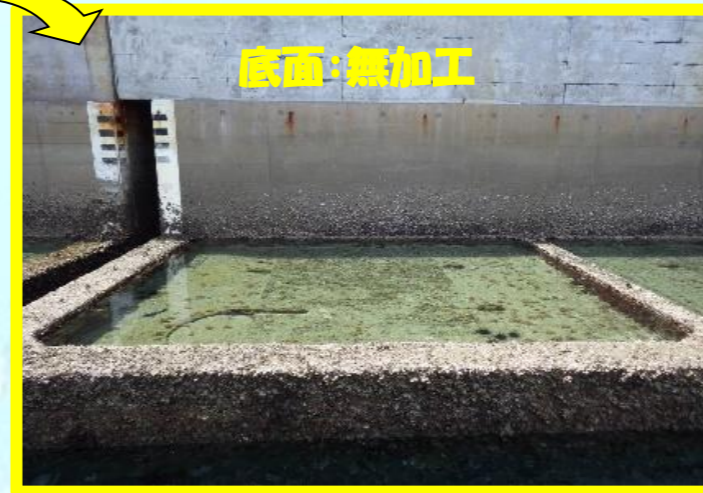
次のページからご覧ください😊



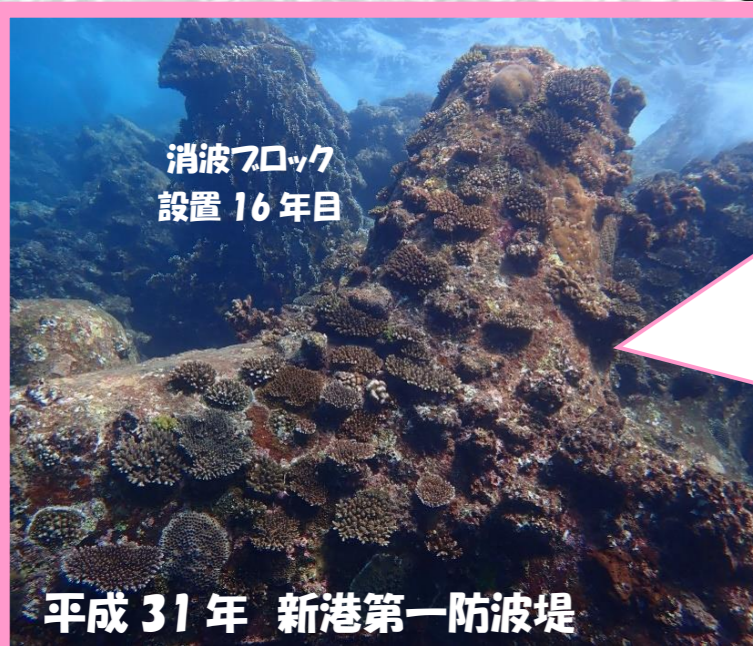
●港内の海域生物等の生息状況



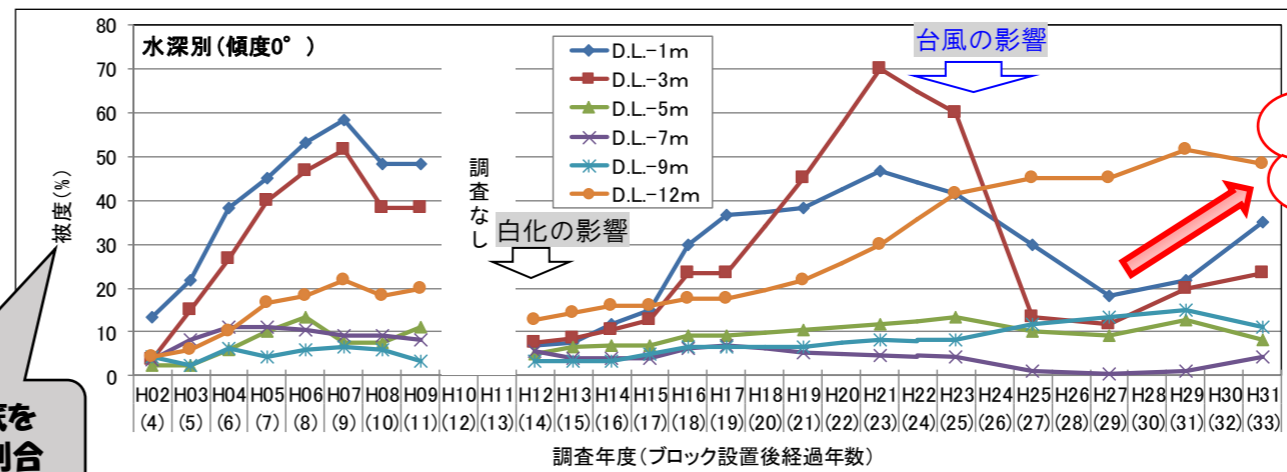
人工タイドプール



16年後

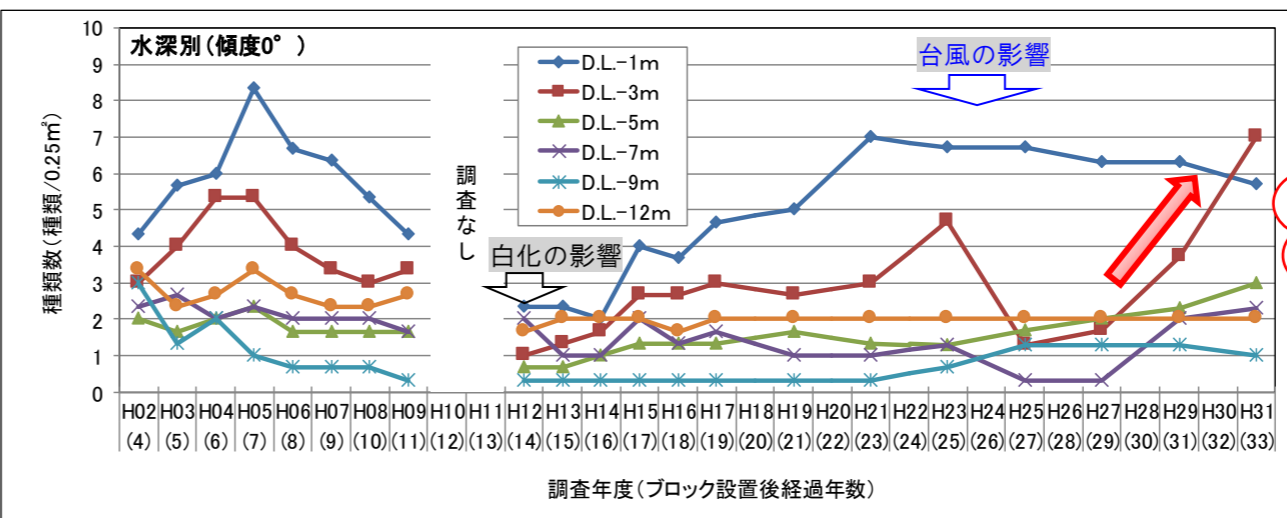


大潮の干潮時前後に構造物内がプール状態となるように高さが設計されている「人工タイドプール」が整備されています。サンゴの幼生がプール内に留まる確率を高めたり、サンゴの着生(基盤への定着)を促進する凹凸加工が底面に施されています。
⇒ 人為的にタイドプールをつくることで、「サンゴ幼生(赤ちゃん)のトラップ効果」、「凹凸加工によるサンゴの着生促進効果」が複合的に作用し、一般に港内に少ないミドリイシ属サンゴの新たな加入を促しています。



近年は水深1m~3mの浅い場所でサンゴが回復傾向

被度:サンゴが海底を覆う面積の割合



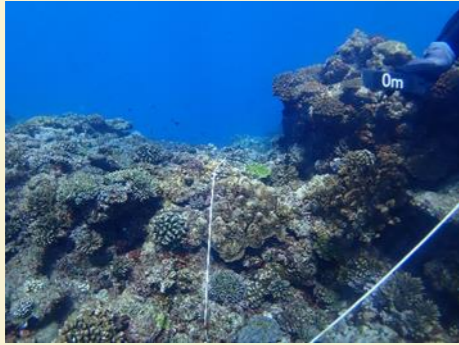
特に水深3mでサンゴの種類が増加傾向

●那覇港の海域環境マップ ～サンゴ類の分布状況と水質環境の関連性～

平成31年度調査結果

浅ノ瀬

- ・岩盤には多くの種類のサンゴが生息。
- ・サンゴの面積は、年々増加傾向。



那覇防波堤

- ・港外側は、サンゴの生息面積が広い。ミドリイシ属を中心に多くの種が生息。南側ではサンゴが増加傾向。
- ・港内側はソフトコーラルが多く分布。



- ◆**水温環境:** 潮の流れが速いことなどにより、高水温になりにくい。ほかの地点と比べて、夏季に高水温になりにくいいため、サンゴが白化しにくい環境。

新港第一防波堤

- ・港外側浅場でサンゴが多く生息。水深が深いところではハマサンゴ属が特に多く生息し、増加傾向。
- ・港内側はソフトコーラルが多く生息。



干ノ瀬

- ・岩盤には多くの種類のサンゴが生息。被度は増加傾向。



自謝加瀬

- ・岩盤には多くの種類のサンゴが生息。



浦添第一防波堤

- ・港外側の水深 5m 以浅では、サンゴが広範囲に生息。ミドリイシ属やハナヤサイサンゴ属などの立体的な形状の種類が多い。
- ・港内側のケーソン直立壁面ではソフトコーラルが多い。消波ブロックにはミドリイシ属が多い。



- ◆**水温環境:** 港外側では、外洋の影響が大きい。浦添ふ頭地区などのリーフが広がる浅い沿岸部や、新港ふ頭地区などの海水の流れが滞りがちな港内奥部に比べて、気温の影響は小さく、比較的水温や塩分が安定している。



★代表的なサンゴの種類

- ・ミドリイシ属



- ・ハマサンゴ属



新港ふ頭地区周辺

- ・サンゴ類は少なく、ケーソンの直立壁面やマウンド上のブロックにソフトコーラル類がまばらに生息。

- ◆**水温環境:** 海水の流れが滞りやすいため、気温の影響を大きく受ける。夏季は高水温になりやすく、冬季は低水温になりやすい。



浦添ふ頭地区(L-1・L-2)

- ・礁池(イノー)や干潮時に干出する場所では海草や海藻の藻場が広く分布。南側(西洲)の礁池では枝状サンゴが局所的に分布。
- ・水深が深くなる礁縁部(リーフエッジ)では、多種のサンゴが生息。

- ◆**水温環境:** 水深が浅く、干出箇所もあるため、気温の影響を大きく受ける。夏季は高水温になり易く、冬季は低水温になり易い。

